鵜飼い漁をめぐるポリティカル・エコロジー
中国・長江中流域における漁場面積の減少と漁師たちの対応
Political Ecology of "Cormorant Fishing": Change of "Cormorant Fishing" under the Decrease of Fishing Area in the Lake Poyang, China

卵田宗平
UDA Shuhei

①問題の所在
②鵜飼い漁について
③江西省鄱陽湖の変化
④鵜飼い漁師たちの対応
⑤漁師たちの対応と鵜飼い漁の変化
おわりに

【論文要旨】

本稿は、長江中流域・江西省鄱陽湖における鵜飼い漁を対象に、生産性負制の実施後に漁場面積が減少した事例を取り上げ、漁師たちがこの状況にいかに対応したのか、そして彼らの対応が鵜飼い漁にどのような変化をもたらしたのかを考察するものである。

調査では、まずRS（リモートセンシング）技術により水域の面積を測定した。その結果、鵜飼い漁師たちが操業可能な水域は過去16年間に76.3%减少したことがわかった。こうしたなか、漁場面積の減少に対し立たずして漁師たちは、川幅の広い河川で集団漁（ウォ）を開始した。大型の鵜飼い漁師や業者にも販売できる仕組みをつくりました。この結果、鵜飼い漁は、①漁獲物を特定の業者に売り切ることができることで比較の安定した収入が得られるようになった。②ウォを漁村周辺の河川で行うようになりましたため、一連の採算において移動に費やされる時間が以前の1/2に短くなり、漁獲（実際にに川を流れて魚を獲る作業）時間が増えた。③活動強度の強い漁獲作業の時間が増加したため、出漁回あたりの身体活動量が増加した。そして、最後に、漁業環境の変化に対する漁師たちの対処のメカニズムを考察し加えた。

【キーワード】鵜飼い漁、ポリティカル・エコロジー、生産性負制、生業技術、鄱陽湖